レッスン：２“M”

テーマ：Life /真理/リアリティー

シリーズ：M/MAC2.DOC

私の兄弟・姉妹達、

スピリット、光、火の子供たちよ。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

人間はLife（生）の現象をLifeそれ自体　(Life Itself)として理解しています。しかし、Lifeそれ自体は人間が理解しているのとは完全に異なっています。Lifeの現象を学ぶことによって真のLife（Real Life)の理解に到達することは可能でしょうか？また、どの程度の理解に到達できるのでしょうか？

Lifeの現象として、人間は何の結果なのでしょうか？また、人間は絶対的Life(Life Absolute)としてのそのインナーセルフを、Lifeの現象界において放射できるのでしょうか？私達は誕生という現象によって生命として存在し始め、肉体的死という現象によって生命として存在することを止めます。

Lifeそれ自体がどのポイントで投射され、Lifeの現象がどのポイントで投射されるのか、Lifeそれ自体がLifeの現象から表現されることが可能か否か、を理解するのは重要なことです。

　　答えを必要とする問いと考えがあります。意味としてのLifeは聖なるエバレスキアにおいて見出すことができますが、Lifeそれ自体としては、それは意味を越えています。それはLife、リアリティーです。エバレスキアの諸世界におけるLifeは絶対善、あるいは汎アガピ、そして絶対パワーとして投射されています。

現象としてのLifeは動き、波動、振動する何かの結果です。Lifeの現象は実存（＊現象）の世界、二元性の世界、二元対極の世界、調和がバランスに変わった世界にあります。これらは現在のパーソナリティーの世界です。

Lifeそれ自体は絶対真理であり、絶対リアリティーです。そして神のアウタルキーは神の本質です。その主な特徴の一つはそれを動かしたり、振動させたり、発振させるものが何もないのに存在する運動・波動・振動です。

現れとしてのLifeは神の黙想の結果であり、それは存在の世界、元型・イデア・法則・原因の世界、調和と豊穰の世界の中で表現されます。これらは魂のセルフ・エピグノーシスの世界です。

Lifeの現象はLifeそれ自体の結果であり、そこでは魂のセルフ・エピグノーシスからのLifeの微小な部分が、制限とニーズ(needs、必要性)の中に取り込まれます。この制限内に取り込まれてニーズが生じるのですが、それらは本当のニーズなのでしょうか？答えはノーです。それらは真のニーズではなくて、理解しうるニーズなのです。

今や、Lifeの現象は思考・行動の仕方として表現され、それらの意味の世界において、意識であるセルフ・エピグノーシスの動きの結果として、気づきのレベルを表現します。実際、それらの意味は、無知の中にいる人間の創造であり、それらの創造を通じて人間は自分の存在に気づくのです。

不完全である人間が、Lifeそれ自体を実際に理解する段階に到達できるでしょうか？できません、人間はLifeを部分的に理解するだけです。たとえ彼が４番目のヘブンに到達し、存在の世界のステートに入ることができるようになったとしても、真理・リアリティーとしてLifeそれ自体を理解していると言うことはできないでしょう。

彼がそれらの世界でインナーセルフの特質を表現していても、絶対存在の多重性のアウタルキーのステートに入ってはいないのです。

\*Page2

動き、波動、振動として起こる全て、そしてその結果は全て永遠の現在、汎宇宙的潜在意識のマインド内に記録されます。

そして汎宇宙的潜在意識のマインドもまた神のアウタルキー内にあるのです。

神のアウタルキーはそれらを必要としているのでしょうか？いいえ、神のアウタルキーはそれらを必要としませんが、神の黙想、ブレーシス、エバレスキアの結果としてそれらを創造するのです。それは、動き・波動・振動である神の本質の特徴の結果である何かを完成させるためです。

絶対リアリティーおよび真理としてのこのLifeのステート（＊state,状態）とは一体何なのでしょうか？それには始まりと終りがあるのでしょうか？このステートは、実際、人間の頭脳では理解不可能なものであり、それはあらゆるものの原因であると言えば十分でしょう。人間が二元性の中にある人間の頭脳によって、“あらゆるものの聖なる原因”というリアリティー、絶対真理を理解する方法は、彼自身が絶対リアリティー・真理の部分にならない限りありえません。同調、そして同化でさえも、絶対リアリティー・真理としてのLifeのステートと比べるとずっと低い状態です。

聖なるエバレスキアの中で目的に奉仕するために投射し、決して神のアウタルキーを去ることのないアークエンジェル（＊大天使）でさえ、このステートを理解し、表現することはできません。

ミカエル、ラファエル、ガブリエル、ウリエルその他のアークエンジェル達は、創造界での奉仕としての仕事に従事する特定のオーダーの意識を表現すること以外にも、聖なるブレーシスの意識を投射します。

聖なるエバレスキアは、神のアウタルキーと汎アガピにおける神の黙想とブレーシスの結果です。

動物界や植物界のLifeの現象における生物もまた、Lifeのスパークを有しているのでしょうか？ここには分岐点があります。人間のLifeの現象は、Lifeそれ自体のスパークの結果であり、それゆえ神に似ています。生きている形態としての動物・植物界に関しては、それらはLifeによる創造物であり、それらの存在のスパークはLifeの息吹なのです。Lifeの現象において、セルフ・エピグノーシスは気づきのレベルに従って、異なった意識レベルで現します。　　これらのレベルは本能的意識、潜在意識として始まり、意識、超意識のセルフ・エピグノーシスがあります。

Lifeの息吹の現象に関しては、意識は本能的意識として表現されます。このタイプの意識は、特定の種の永遠のエンジェル（＊天使）と結びついています。

これらの永遠のエンジェル達はそれらが代表する特定の種を受け持ち、

エンジェル達もまたそれらを投射した特定のアークエンジェルの意識と結びついています。

人間は進化・成長することによって、自分のLifeの息吹を有するようなエレメンタルを創造することが可能なポイントに到達できます。

それらの世界において神の中で表現されたLifeあるいは絶対存在は、ロゴス的および聖霊的な二つの表現を通じて、下降あるいは表現されます。最初は人間のイデアのロゴス的下降であり、もう一つは、それを通じて宇宙、創造界全体が築かれた聖霊的あるいはダイナミックな表現です。ロゴス的現れの中でSpirit Being Self（＊スピリット存在としてのセルフ）が経験的知識を通じて自己実現のクオリティーを表現することを決意した瞬間から、それはいわゆる魂のセルフ・エピグノーシスを創造するためにそれ自身の微小な部分を放つのです。

魂のセルフ・エピグノーシスが創造され、存在の四つの世界、および元型、イデア、法則、原因の諸世界に放たれます。

魂のセルフ・エピグノーシスとして、それは人間におけるセルフ・エピグノーシスの意識を現し始めます。それは、以前は有していなかった制限を有しているでしょうか？

\*Page3

人間のイデアが制限を提供することがありえるのでしょうか？ありません、しかし何かを得て、戻るという特定の目的のために、下降することを決意するのです。創造の全体的マトリックス（＊母体、基盤）である天人（Heavenly Man）のフォーム、天人（Heavenly Man）のイデアと共に決意したのです。それゆえ、人間は神に類似しており、従ってそれは魂のセルフ・エピグノーシスが持つ唯一のコミットメント（決断）であり、それは天人のイデアのフォームなのです。

この時点から下へ、形とフォームの制限の中へと入ります。存在の世界から実存の世界へと入っていくのです。この時点で、

魂のセルフ・エピグノーシスは異なったカラーを帯び始め、その結果、それ自身の微小な部分を投射し、それが永遠のパーソナリティーを作るのです。

この時点で、永遠のアトムと呼ばれる魂それ自身の創造の結果として、魂のセルフ・エピグノーシスはもう一つのステートに伴われています。このステートは元型・イデア・法則・原因の結果である能力、つまり永遠のパーソナリティーと呼ばれる下位の表現に、最下位の諸世界でそれ自身の部分を投射する能力を付与します。それはそれ自身の部分を投射しますが、全体を投射することはありません

永遠のパーソナリティーとして、それは引き続き神であり、汎アガピ、絶対英知、絶対パワーという特徴を有しています。最下位の諸世界に下降した部分は永遠のアトムと呼ばれるものであり、

人間に実存（＊現象界で体験すること）を提供するために最下位の波動を身に纏うのはこの永遠のアトムなのです。

魂のセルフ・エピグノーシスとして、それは人間のイデアの能力・可能性のサイクル内にある、意識のセルフ・エピグノーシスを表現し始めます。魂のセルフ・エピグノーシスは、人間のイデア、ロゴス的表現を通過したSprit Being Monad（＊スピリット的存在であるモナド）からの微小な部分の結果であり、

それ故に魂のセルフ・エピグノーシスは人間なのです。

最初の下位の波動はノエティカル体を作るスーパーサブスタンスとしてのマインドのフォームによって作られ、その投射はノエティカル体のダブル・エーテリックと呼ばれる型を通過して投射されます。

さらに下降すると、サイキカル体のダブル・エーテリックの型を通過することによって、超物質をまといます。さらに再びそれぞれのエーテルの型を通過して、さらに多くの制限をもって投射し、最終的に物質をまといます。私達が現在知っており、認識しているフォームにおいて、物質界の中で投射します。

これら全ての目的は何でしょうか？唯一の目的は経験し、何かを得ることです。しかし、一体何を得るのでしょうか？それは知識でしょうか？私達を特徴づけ、私達のインナーセルフを特徴づける絶対英知と比較した場合、知識とは何でしょうか？

私達が獲得する何かとはなんでしょうか？それは創造界の中でロゴスの下降に与えられる個人性(individuality)です。この能力はまさにロゴス的なものであり、それは誰か他の人の“I'ness”（私であること）とは多いに異なった“I am I”（私は私である）を獲得するためです。

一人の人間の肉体を勉強することによって、あなたは全体のマトリックス（＊全ての人間の肉体に共通する基盤）を知ることができます。しかし思考・行動の仕方としての一つの認識を勉強しても、あなたはその特定のものだけを知るにすぎません。

誰もがそれ自身の経験の結果として、自分自身の思考・行動の仕方を有し、それ自身のアイデンティティーを持っています。

個人性を獲得して、アイデンティティーを維持しながら絶対英知に戻ることが目的の全てです。

私達は絶対Lifeについて、及びLifeの現象について触れました。Lifeの現象があるためには、Lifeのリアリティーのスパークを得なければなりません。Lifeの現象における他の生物形態とLifeそれ自体との間の関係を区別します。

\*page4

私達は創造界におけるロゴスおよび聖霊の下降について触れました。聖霊の下降は意識を表現します。創造界それ自体はロゴスの下降のためであり、意識のためではありません。なぜなら、それは何物をも獲得しないからです。それらの意識は創造界全体を築き、さらにそれらの設計、創造界を維持する召使いなのです。それらはまた、現象としてのLifeがそれ自身、および他の全ての生物的形態を投射する物理的環境を創造します。

この時点では、アークエンジェルの全階級とアークエンジェルの全システムがあります。元型、法則、原因の創造、そしてロゴスの下降のためのイデアの創造の各ポイントにおいて、植物界と動物界のイデアの元型があります。動植物界のイデアの元型は、現れの世界においてアークエンジェルの創造として表現されます。

これらのイデア、アークエンジェルの創造のこの時点から、他の全ての生物的形態と種が存在します。これら全ての創造はある一つのものによる投射、ただ一つの意識による投射なのでしょうか？

違います。動植物界は聖霊としてのアークエンジェルの創造であり、Lifeそれ自体ではなくてLifeの息吹を背後に有する他の多くのグループ全体を、一つの超意識が担っています。

この時点で、種の永遠のエンジェル達が現れます。なぜなら、彼らがイデアとして、様々なLifeの王国(Kingdom of Life)をこの時点で投射し始めるからです。最下位のポイントでは、様々なLifeの王国(Kingdom of Life)が超ノエティックおよびノエティック界に投射します。次第に、存在の世界ではなくて実存の世界（＊現象界）で現されるこれらの世界に到達するようになり、ノエティカル、サイキカル、そして私達が知っている物質界の中で物質的亜ステートを帯びるようになります。

創造界にはロゴス的現れと聖霊的現れの両方が見られます。創造界におけるロゴス的現れはそれらの背後にLifeそれ自体のスパークがあり、聖霊的現れの目的は創造界で奉仕することであり、特にロゴス的現れに奉仕することです。人間が経験を重ねることによって、人間のイデアを通じて下降する目的を果すためには、成長して自分自身を表現するための環境が必要ですが、そのための環境を提供するのです。

私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　“2M”４終り

EREVNA/MAC2/EN/DOC//9O/91